

福島県白河市

第2回

芭蕉白河の関 俳句賞

白河を歩く、
時空を超えた芭蕉と曾良の道。

史跡 白河関跡

源義経伝説

「下馬の碑」

義経が関山満願寺に先勝を祈願した。下馬の碑は弁慶の書で、ここより先は馬に乗って入ることを禁じる結界の標石(関辺)。

「矢立の松」

義経が先勝占いに、松に弓矢を射た。(旗宿)

「旗立の桜」

義経が源氏の旗を桜の木に立てた。(旗宿)

「的石山」

義経が関山の山頂から遠矢を放った。矢は芦ノ口の崖に彫られた供養塔に当たった。以来、この丘を的石山という(本沼)。

「入道淵の由来」

弁慶が親知山と木ノ内山の間を流れる阿武隈川を堰き止めるため、化粧塚山と八幡山を天秤棒で運ぼうとしたが、天秤坊が折れてできなかった。その時踏ん張った足跡が入道淵という。(舟田)

「庄司戻しの桜」

源頼朝平家追討の挙兵の折、信夫の庄司佐藤基治が、その子継信、忠信を義経につけ、自分もこの地まで送ってきた。別れの酒盃のとき、一本の桜の枝を地面に突きさし、息子二人に「汝ら、忠義の士ならばこの枝は根付くであろう」と戒めて信夫に戻ったという。兄の継信は八島の合戦で、弟忠信は京都でそれぞれ戦死した。以来、桜は根が出て葉がつき、年ごとに美しい花を咲かせるといふ。(表郷中野)

源義家伝説

「幌掛けの楓」

義家が母衣を掛けて休憩した。

「うたたねの森」

義家がうたた寝をした所(鹿島)

「片葉葎」

義家東征の折、愛馬が腹痛をおこして清水を飲んだ時、側にあった葎を食って元気になった。その時食われた葎の片側だけが、今なお芽吹くことなく片葉だけで成長するという。(表郷高木)

「釜橋」

義家奥州征伐の時、兵糧を炊くために炊事場を設け大きな釜を備えつけた。(東釜子)

「権太鞍山」

馬の口をとる者が、山頂に義家の鞍を忘れてしまった。後に鞍は石になった。(大信隈戸)

白河周辺の源義経・源義家の伝説を詠んだ俳句を募集します。

- ▶ 募集部門 ◎一般の部(高校生以上) → 「源義経・源義家伝説」を題材とした作品。1人3句まで。
↳ 海外特別賞「みちのく」を題材とした作品を募集します。1人3句まで。
- ◎ジュニアの部(中学生以下) → 自由題。本人の未発表作品。
- ▶ 応募方法 ◎所定の応募用紙にて郵送または市内の投句箱へ投函してください。
- ▶ 選者 ◎一般の部/鈴木 太郎、佐怒賀 直美 ◎ジュニアの部/神野 紗希

投句料無料

令和2年 投句締切

8/31(月)

消印有効



インターネット
投句



俳句賞
ホームページ

投句箱

設置場所 白河市立図書館りぶらん
白河市役所本庁舎 白河関の森公園